

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	プレジジョン・ソリッド	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.054	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：プレジジョン・ソリッド**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 番

PAPからピンとの距離  
 インチ

4-1/2

4in1/2

**比較対照ボール：プレジジョン**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 番

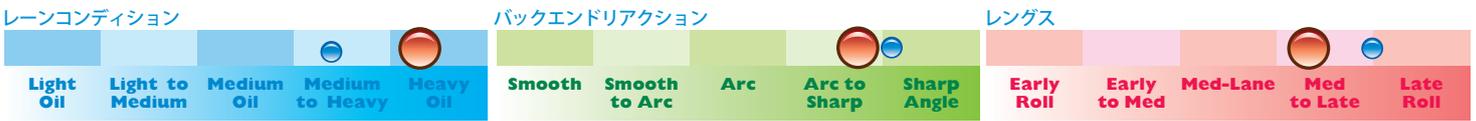
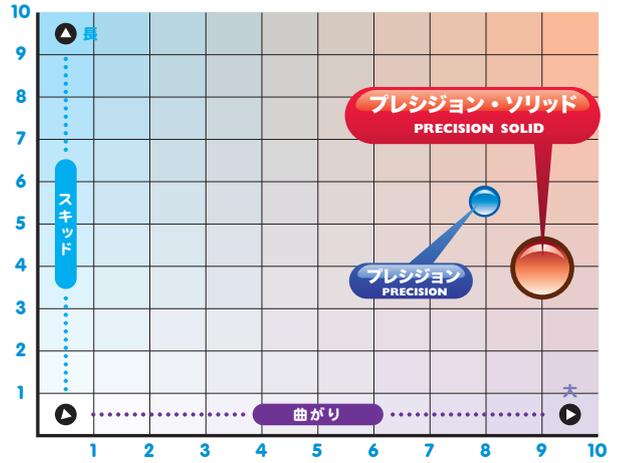
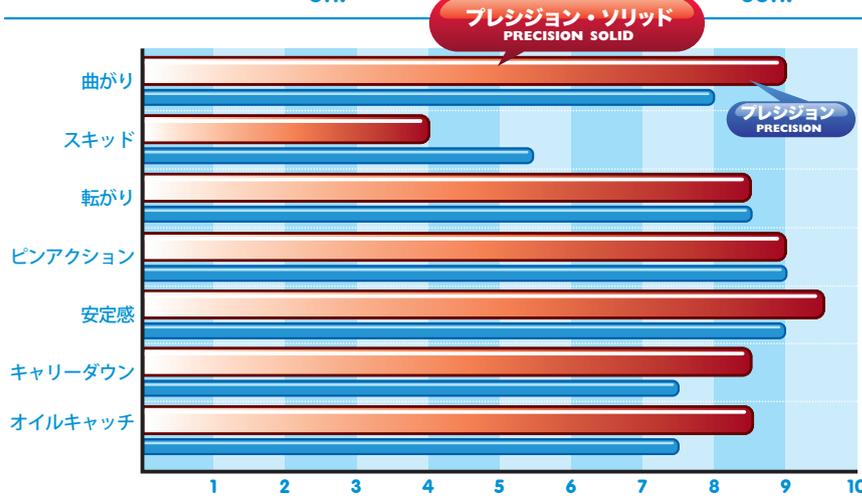
PAPからピンとの距離  
 インチ

4-1/2

4in1/2



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



**ボールの評価**

TRACKでPARADOX VやPRECISIONで使用されているPrime Coverstockは、QR(Quick Response)と並行して開発された素材で、Solid素材からPearl素材までキャッチとドライゾーンでメリハリ感を出す開発コンセプトで生まれた素材です。この素材にできたPARADOX VやPRECISIONは各々キャッチの仕方は違いますが、共通して言えるのはブランドのイメージを変える曲がり方にあり、しっかりと曲がりが出ていますと実感できます。またさまざまな表面加工を施すことで現れる可能性は広がり、特にPRECISIONは表面加工をさっと曇らせる程度で劇的にパフォーマンスは変化します。このようなカスタマイズに目を向けられるボウラーが増えるほど、求められるボールの種類や性能が変わるでしょう。今回は前回のPRECISIONがPearl素材に対し、Solid素材のPRECISION SOLIDの発売です。私はPRECISIONを箱出しのままと表面加工を施したものを発売前にテストングして比較を行ってきましたが、先での動きを求めるボウラーには箱出しのままがイメージが良く、もう少し曲がりや手前から始めてほしい私みたいなタイプにはさっと表面を曇らせた方が良いイメージで投げることができました。そのイメージをやや強めに出しているのが今回のPRECISION SOLIDで、スキッドの長さがSolid素材になることで調整されていて、Solid素材に思われがちの鈍いバックエンドの動きも見当たらず、オイルに対しての強さとバックエンドの動きの強さを共に活かされている、よりPRECISIONのコアの特徴が活きる仕上がりだと感じました。オイルに強い反面、出し戻す幅も大きく取れるのが良い仕上がりを示す指標であるかのようにしっかりと軸移動してポケットヒットできるリアクションは、他社メーカーにその分野を明け渡すことなく、PRECISION SOLIDで十二分勝負できるボールだと思います

**特記事項** ねじれ感とともにバックエンドの動きが強調されるPRECISIONコアはSOLIDカバーを得ることでさらに強みを増し、オイルを切り裂きながらピンヒットまでを駆け抜けます。